

101 奥津城奉遷祭典礼 (立礼) 「奥津城を移転する前の御祭り」

一、齋主以下 祭員参進列立

一、齋主 奥津城に拝礼復席

一、祓主 奉遷祭 祓 詞を白す

一、大麻行事 (奥津城・齋主・祭員・参拝者)

一、齋主 教祖宗忠神に奉告詞を奏す

一、齋主 大祓詞を唱う

一、齋主 奥津城奉遷祭詞を告ぐ

(霊主・御幣を作成してそれに霊を遷魂しその家の祖霊舎に墓の出来上るまで祭祀する)

警蹕

一、齋主 奥津城に拝礼復席

一同習之

一、齋主以下 祭員退下

以上

102

奥津城奉遷祭祓詞

掛巻も畏き 祓戸大神の御前を拝み奉りて「職姓名」畏み畏みも白さく

八十日日は多にあれども今日を生日の足日と選び定めて 此道の道づれ「 家はしも 常に高

く尊き御神徳を被り 生き通しの道の修行に恪しみつつ 御遺骨の鎮まり処として此地を新墾築固

め 奥津城所となしけるが 此度事理由ありて奥津城所を移転奉斎なさんとす 如此仕え奉る状を

平けく安らげく聞召し諾い給い 今日御祭りに預る教師及参来集える諸人等が過ち犯せる罪穢

あらんをば 祓え給い清め給えと白す事の由を聞召せと畏み畏みも白す

103

奥津城奉遷祭主神奏上詞（教祖宗忠神に奉告詞）

吾が教団の黒住教「 教会所に鎮まり座す 掛巻も畏き 教祖宗忠大神の大前を遙かに

おろがまつ
拝み奉りて「職姓名」畏み畏みも告さく

此の「」家の奥津城はしも 此度事理由ありて新たに移転奉斎なさんとする状を聞召し給いて
教祖大神のおおかみみてび 随々仕え奉らくを 平けく安らけく聞召し諾い給いて 大神には常も撫で
給い御寵愛給える事にしあれど 今日御祭りを美麗しく仕え奉らしめ給えと畏み畏みも白す

104 奥津城奉遷祭詞

此の「地名」を永久の住処と 平穩に岩隠り坐す「」家の奥津城の御前に「職姓名」慎しみて
告さく

「家の家族達い」 「家の御遺骨の鎮まり所として此の土地に奥津城を築きて 先祖代
々を敬い守り来つるが 此度大船の思いを起こして (草搔き払い土曳き均し) 嚴の広庭を打ち固め
て) 八十日日は多にあれども 今日を生日と選び定め事起工めて「」家の新しき奥津城を築
き奉らんとす 此斯白す状を聞召し給いて 障ることなく洩過つことなく 法則の随々 工事は弥進
みに進ましめ給いて 厳しく美しき奥津城と造成奉らんと 事の由を聞こえ上げ奉らくを 梢吹く松風

の音もさやかに平けく安らけく聞召し諾い給い 霊等には教祖大神の御手引の随々工事の間 暫
し此の霊主に 安く平穩に還り鎮まり坐せ 安く平穩に還り鎮まり坐せと慎み敬いも白す (警畢)

105 新奥津城竣工祭典礼 (立礼) 「移転した後に行う祭り」

一、齋主以下 祭員参進列立

一、齋主 奥津城に拝礼復席

一同習之

一、被主 鎮座祭 祓 詞を白す

一同馨折

一、大麻行事 (奥津城・齋主・祭員・参拝者)

一、齋主 教祖宗忠神に奉告詞を奏す

一同馨折

一、齋主 大祓詞を唱う

一同和之

一、齋主 奥津城鎮座祭詞を告ぐ

一同馨折

警蹕

(二、献饌「御酒・水玉の蓋を取る」)

一、齋主 玉串を奠す

此間奏楽

一、家長 玉串を奠す

此間奏楽

一、参拝者 順次玉串を奠す

此間奏楽

(二)、徹饌「御酒・水玉の蓋を戻す」

一、齋主 奥津城に拝礼復席

一同習之

一、齋主以下 祭員退下

以上

106

新奥津城竣工祭 祓詞

掛巻も畏きかけまく かしこ 祓戸大神の御前を拝み奉りて「職姓名」畏み畏みも白さくはらへどの おおかみ みまえ おろが まつ

八十日は多にあれども 今日を生日の足日と選び定めて 此道の道づれ「家はしも 新たやそかひ さわ きよう いくひ たるひ えら さだ このみち みち

に奥津城所を移転なし 竣工の日を迎えてあれば 此斯仕え奉る状を平けく安らけく聞召し諾おくつき せじころ いてん しゅんこう ひ むか かくつか まつ たいら やす きこしめ うずな たま

い 今日きようの御祭りに預る教師 及参来集える諸人等が過ち犯せる罪穢あらんをば 祓え給あすか おしうかき またまい きつじ もろひとたち あやま おか つみけがれ はら たまい清め給たま

えと白す事の由を聞召せと 畏み畏みも白す

107

新奥津城竣工祭主神奏上詞 (教祖宗忠神に奉告詞)

吾が教団の黒住教「
」教会所に鎮まり座す 掛巻も畏き 教祖宗忠大神の大前を 遙か
に拝み奉りて「職姓名」畏み畏みも告さく

今日を生日の足日に此の「
」家の奥津城はしも教祖大神の御手引きの随々無事竣工の日を
迎えてあれば 事の由を奏上げ奉らくを 平けく安らげく聞召し諾い給いて 大神には常も撫で給い
御寵愛給える事にしあれど 今日御祭りを美しく仕え奉らしめ給えと 畏み畏みも白す

108

新奥津城竣工祭詞

此の「地名・名称」の奥を仮の齋庭と祓い清めて坐せ奉り齋き奉る

掛巻も綾に畏き天照大御神の大御前及八百萬神等教祖宗忠大神の御前 比地をうしはぎ坐す
大地主大神 産土大神の御前を拝み奉りて「職姓名」畏み畏みも白さく

この道の道づれ「家はしも奥津城所を移転仕え奉らばやと草掻き払い土曳き均して厳
 の広庭を平けく設備えて（御祭り）仕え奉りてよりこの方障ること無く過つこと無く法則の随々
 工事は弥進みに進みて（生前に名前を刻む場合は朱色にするので朱色の文字も）美しく刻み留めて
 下津岩垣動く事なく揺らぐ事なく厳しく美しく奥津城を築き立ておえければ八十日日は多にあれ
 ど今日を生日と選び定めて竣工並びに遷魂の式仕え奉るとして御前に御酒御饌種々の味物を供
 え奉る状を平けく安らげく聞食し諾い給い大地の崩るる事なく底津石垣動く事なく禍津事なく
 千世萬世に守り給い幸い給えと畏み畏みも白す
 辞別きて白さく「家の遠祖代々祖の霊等には此の霊主より此の奥津城所に天翔り国翔り
 寄り来まして安く平穩に遷り鎮まり坐せ安く平穩に遷り鎮まり坐せと慎み敬いも白す（警畢）」

109 土地神奉遷祭典礼（立礼）「移転する前の御祭り」

本典礼は、土地神（石碑・御社）を移転する際に用いる。

一、齋主以下 祭員参進列立

一 参進する

一、齋主 神前に拝礼復席

一同習之

一、祓主 奉遷祭祓詞を白す

一同馨折

一、大麻行事（神前・齋主・祭員・参拝者）

修祓をする 順序に注意

一、齋主 教祖宗忠神に奉告詞を奏す

一同馨折

教祖神への奉告詞は教会所の御神前を遙拝する

一、齋主 大祓詞を唱う

一同和之

大祓詞の奉唱（いのりのことばの用意）

一、齋主 神座奉遷祭詞を告ぐ

一同馨折

警蹕

警蹕あり（一人でつとめる場合は奏上後に発声する）

一、齋主 神前に拝礼復席

一同習之

拝礼する

一、齋主以下 祭員退下

退下する

以上

〔注意点〕

大麻行事 大麻と大麻を弁備する案の準備。

奉遷祭詞 神様に元津御座にお帰りいただく告辞。

従って「ひもろぎ」等は不要である。

玉串奉奠 玉串の奉奠はしない。すでに元津御座にお

帰りいただいている。

献饌 通常、献饌はつとめない。

110 土地神奉遷祭 祓詞

おつちがみほうせんさいはらえのことは
かけまく、かしこ 祓戸大神の御前を拝み奉りて「職姓名」畏み畏みも白さく
やそかひ さわ 八十日は多にあれども 今日を生日の足日と選び定めて 此地に時永く斎き祀れる「土地神名」を
ば 此度事理由ありて移転奉斎なさんとする状を平けく安らけく聞食し諾い給い 今日の御祭りに
あすか 預る 教師 及参来集える諸人等が 過ち犯せる罪穢あらんをば 祓え給い清め給えと白す事の由
を聞召せと畏み畏みも白す

111 土地神奉遷祭再主神奏上詞 (教祖宗忠神に奉告詞)

あ おしのみまじい、くろずみきまう 吾が教団の黒住教「 教会所に鎮まり座す 掛巻も畏き 教祖宗忠大神の大前を 遙か
おろが、まつ に拝み奉りて「職姓名」畏み畏みも告さく
これ 「土地神名」はしも 永年く此の地を守り来つる随々 此度事理由ありて 新たに移転奉斎仕へ
まつ 奉る事となりてあれば事の由を聞召し給いて 御祭りをば教祖大神の御手引きの随々 仕え奉らく
を 平けく安らけく聞召し諾い給いて 大神には常も撫で給い御寵愛給える事にしあれど 今日の御

祭りまつを美麗うるわしく仕つかえ奉まつらしめ給たまえと 畏かしこみ畏かしこみも白まおす

112 土地神奉遷祭詞

黒住教「」 教会所に鎮まり座す 掛巻も綾に畏き天照大御神の大御前及 八百萬神等

教祖宗忠大神の大前を遙かに拝み奉りて「職姓名」畏み畏みも告さく 此の「地名」を永年く

守護給い齋い鎮まり坐す「土地神名」はしも 此度事理由ありて移転奉齋する事となりてあれば

大船の思い帆をおこして 草搔き払い土曳き均し巖の広庭を打ち固めて 八十日日は多にあれども

今日を生日の足日と齋き定め起工式仕え奉り新たに「石碑・御社」を築き奉らんとす 故如此白す状

を聞召し諾い給いて 障ることなく過つことなく 法則の随々工事は弥進みに進ましめ給いて 厳し

く美しき「石碑・御社」として造成終えしめ給えと事の由を奏上げ奉る状を 梢吹く松風の音もさ

やかに平けく安らげく聞召し諾い給い 「土地神名」には工事の間 暫し天の元津御座に 安く平穩

に還り鎮まり坐せ 安く平穩に還り鎮まり坐せと畏み畏みも白す（警畢）

一、齋主以下 祭員参進列立

一、齋主 神前に拝礼復席

一、祓主 鎮座祭祓詞を白す

一、大麻行事 (神前・齋主・祭員・参拝者)

一、齋主 教祖宗忠神に奉告詞を奏す

一、齋主 大祓詞を唱う

一、齋主 神座安鎮祭詞を告ぐ

一同習之

一同馨折

一同馨折

一同和之

一同馨折

警蹕

(二、献饌「御酒・水玉の蓋を取る」)

一、齋主 玉串を奠す

一、参拝者 順次玉串を奠す

(二、徹饌「御酒・水玉の蓋を戻す」)

此間奏楽

此間奏楽

一、齋主 神前に拝礼復席

一同習之

一、齋主以下 祭員退下

以上

114 土地神鎮座祭 祓 詞

掛巻も畏き 祓戸大神の御前を拝み奉りて「職姓名」畏み畏みも白さく

八十日日は多にあれども 今日を生日の足日と選び定めて 「土地神名」の「石碑・御社」を移転奉

斎なし竣工の日を迎えてあれば 此斯み祭り仕え奉る状を平けく安らけく聞召し諾い給い 今日

御祭りに預る教師 及参来集へる諸人等が過ち犯せる罪穢あらんをば 祓え給い清め給えと白す事

の由を聞召せと 畏み畏みも白す

115 土地神竣工鎮座祭主神奏上詞 (教祖宗忠神への奉告詞)

吾が教団の黒住教「教会所に鎮まり座す 掛巻も畏き 教祖宗忠大神の大前を 遙か

におろがまつ
に拝み奉りて「職姓名」かしこ畏みかしこも告さく

此の「土地神名」はしも 永年としまねく此の土地の守りの神と齋いわい来つるが 事理由ありて新たに移転奉齋
なさんと計画たばかり来つる随々 無事ぶじ竣工の日を迎えてあれば 今日を生日の足日と選えらび定めて 竣工
ののりか 式仕え奉らんと事の由を奏きえ上げ奉る状を平たいけく安やすらけく聞召きこしめし諾うずない給いて 大神には常も撫なで給い
御寵愛みいつくしみたま給える事ことにしあれど 今日きょうの御祭みまつりを美麗うるわしく仕つかえ奉らしめ給えと 畏かしこみ畏かしこみも白まおす

116 土地神竣工鎮座祭詞（神座安鎮祭詞）

此の「地名・名称」の奥おくを飯かりの齋庭ゆにわと祓はらい清きよめて坐ませ奉り齋まつき奉る掛卷かけまくも綾あやに畏かしこき

天照大御神の 大御前及八百萬神等 教相宗忠大神の 大前 此地をうしはぎ坐ます 大地主大神
産土大神の御前を遙はるかに拝おがみ奉りて「職姓名」畏かしこみ畏かしこみも白まおさく

「土地神名」はしも 此度事理由ありて移転奉齋の神業仕え奉らばやと 草搔くさかき払はらひ土曳つちひき均ならして殿
の広庭ひろにを平たいけく設備そなえて（御祭り）仕つかえ奉りてよりこの方 障さわること無なく過あやつこと無なく 法則のりの随々
工事は弥進たくみみに進すすみて 殿いしく美うらしき「石碑・御社」を築きづき立たておえければ 八十日やそ日は多さにあれ

ども 今日きょうを生いくひの足たる日ひと齋いわだめて 竣しゅん工こう並ならびに鎮ちん座ざ祭さい仕いえ奉まつるとして 御み前まえに御み酒き御け饌く種さ々さの
味あじ物ものを供まなえ捧おろがみ仕つかえ奉まつる状さまを平たいけく安やすらけく聞き食しめし諸あい給たまい 大おお地つちの崩くずる事ことなく底そこ津つ石い垣かき動うごく事こと
なく 禍まが事ことなく千ち世よ萬よろず世よに此これの土とち地ちの守まもり神がみとして守まもり給たまい幸さいい給たまえと 畏かしこみ畏かしこみも白まおす
辞こと別わきて白まおさく「土とち地ち神かみ名な」には天あめの元もと津つ神かみの府みやこより此これの「石いし碑がみ・御み社しろ」に天あま翔かり国くに翔かり寄より来きまし
て 安やすく平おだい穩うに遷うつり鎮しずまり坐ませ 安やすく平おだい穩うに遷かえり鎮しずまり坐ませと畏かしこみ畏かしこみも白まおす (警けい畢ひつ)